

年 組 名前:

問1

電動アシスト自転車の事故件数が最多を更新し続けています。2023年に多かった都道府県の上位3を教えてください。

1位:

2位:

3位:

問2

2023年に事故件数が無かった都道府県を教えてください。

.....

.....

.....

問3 自転車と比べ、高齢者の重大事故が多い理由を教えてください。

.....

問4 2024年11月の改正道交法で、新設された自転車運転に関する罰則を教えてください。

.....

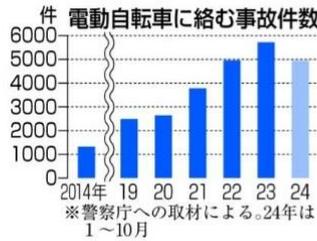
問5 2023年、国内の電動アシスト自転車販売台数を教えてください。

約.....台

電動自転車事故最多5712件

10年連続更新 安全対策が急務

昨年



電動アシスト自転車が続んだ2023年の事故件数は5712件で、警察庁に記録が残る04年以降過去最多だったことが15日、同庁への取材で分かった。14年から10年連続で最多を更新し続けているという。24年は10月末までで4951件に達しており、23年を上回る可能性がある。

電動自転車は坂道でも楽に走行できるため、高齢者や若者を中心に利用者が拡大。一方、電動キックボードやモペットの呼ばれるペダル付き電動バイクといった新しいモビリティ乗り物も続々登場しており、安全な交通環境の整備が急務となっている。

警察庁によると、電動アシスト自転車による事故件数は、井、鳥取、佐賀は各0件だった。23年の事故件数(5712件)を都道府県別で見ると、大阪が最多の1813件で、19年(3226件)の約5.6倍に上った。次いで東京が847件、神奈川822件、千葉526件、兵庫438件。一方、福島、鳥取、佐賀は各0件だった。

ズーム 電動アシスト自転車 ペダルをこぐ力をモーターがアシストする自転車。モーターを駆動させるバッテリーは取り外して家庭用コンセントで充電できる。道交法では、一般的な自転車と同様「軽車両」として扱う。同法施行規則でペダルをこぐ力に対して補助できる比率が定められており、時速10km未満ではこぐ力の2倍まで、時速24km以上は補助されない。経済産業省によると、2023年の国内の販売台数は約74万2千台。

14年に1319件だったが、20年は2642件に倍増。自転車全体の事故が減少傾向にある中、増え続けているという。

23年の事故件数(5712件)を都道府県別で見ると、大阪が最多の1813件で、19年(3226件)の約5.6倍に上った。次いで東京が847件、神奈川822件、千葉526件、兵庫438件。一方、福島、鳥取、佐賀は各0件だった。

事故による死者数は19年の58人から23年の51人まで50人前後で推移しており、24年は10月末時点で56人だった。23年の51人の内訳は85歳以上が11人で最も多く、70～74歳と80～84歳各8人、75～79歳6人、65～69歳3人で、65歳以上が全体の7割を占めた。

近年、自転車の違反や事故が目立っており、特に電動アシスト自転車は車体が重く、力が弱くても速度が出ることなどから、自転車と比べて高齢者の重大事故が発生する割合が高いとされる。

政府も対策を本格化。今年11月には改正道交法が施行され、自転車走行中の酒気帯びや携帯電話使用への罰則が新設された。自転車の交通違反に反則金の納付を通告できる制度も、26年春までに導入される。

(2024年12月16日付 山梨日日新聞 18面)